



# NPO法人 丸亀街づくり研究所通信

経営理念『いのちに寄り添い 心をつなぐ』

## 《 設立 12 年目を迎えて ～声を聴くということ～ 》

当法人が 11 月 1 日をもって 12 年目を迎えました。当法人を日頃からご支援ご協力して下さっている皆様方のお陰であり、厚く御礼申し上げます。

今年度より事業が 3 事業に増え、事業所も 4 カ所ということでスタッフも増え、慌ただしい日々を過ごしております。自立援助ホーム（児童自立生活援助事業）、アフターケア事業、そして、アドボカシー事業（香川県児童養護施設等入所児童の権利擁護に係る実証モデル事業）を行っております。

子どもアドボカシーについては法人内でも研修をしてきました。「声を聴くこと」の大切さの理解を深めると同時にその難しさについても話し合いました。聴いた声に対して、大人の考えで説得したのではないか。子どもが納得できるまで十分な対話をとったのかなど改めて考えさせられることが山積みです。

ここまでは、「すべての子どもにアドボカシー（声をあげること）を」を行動指針に活動を行っておりますが、これが広くいろいろな方に知ってもらえることによって、本来施設などで行っている支援の中で声を聴く事もよりレベルアップして丁寧に聴くことと対話がどこの施設等でも広まっていければいいと考えております。

この事業を通して、児童福祉施設などが必要な事、それらを退所した子へのサポートが必要な事、そして、退所する前からしっかり子どもとしての権利が守られて声をあげることが大事であることを教わっていて全ては一本の線でつながっていると感じます。

今後もスタッフ一丸となって邁進して参りたいと思いますので、これからもご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いします。

NPO 法人 丸亀街づくり研究所 理事長 合木 啓雄

## 《 大切なこと 》

令和 4 年 11 月 1 日でおひさま荘は 12 年目を迎えました。日頃よりご支援を頂いている皆様、地域の皆様に感謝申し上げます。

この 4 月からの半年は、子ども達から発信された思いや言動に支援者としてどうしていくのか、考えさせられた日々でした。大人から見たら取るに足らないことでも、子どもにとっては大きなこと、そこを見過ごしたら大切なことを見失ってしまうと痛感しました。

おひさま荘で暮らす子ども達には、解決出来ない様々な事情があります。ある子どもと話した時に、幼い時に親に甘えることが出来ずに淋しかったことを聞きました。成長した今、心の中にどうしようもないしんどさや過去を抱えて、それでも懸命に歩いています。

どうか未来に幸ありますように。笑顔が増えますように。

いつか「私は私のままでいいんだ」と思う日がくることを信じて、私たちは子どもと共に歩んでいきます。

若者独立塾 丸亀おひさま荘 主任補佐 加地 三千代

## 《 寄付をして下さった方々 》(順不同)

- ・オアシス丸亀様
- ・圓通寺様
- ・藤川農園様
- ・カンショク様
- ・川西農園様
- ・西内花月堂様
- ・餃子の王将様
- ・シードラゴン様
- ・小川洋子様



- ・中島健三様
- ・岡本隆夫様
- ・角野仁美様
- ・前田様
- ・芥嘉美様
- ・木村光宏様
- ・亀山学園様
- ・リトルマーメイド様
- ・patisserie ciel 様

♡ありがとうございます♡



- ・丸亀市社会福祉協議会様・高松市社会福祉協議会様・香川県社会福祉協議会様・香川県共同募金会様
- ・香川県農業協同組合様・たかまつ子ども食堂等ネットワーク様・ハローズ様・ペルシャンパレス有限会社様

## 《 高校生のインタビューシップ(8/7・10・13) 》

三木高校の鈴木こはるさんが丸亀街づくり研究所の活動を体験しました。

鈴木さんはインタビューシップを終えて、「人との関わり方や働く意味を深く学びました。また、働く理由について、収入のため、人の役に立つためだけでなく、自分の居場所をつくるためや地域のためなどのようにたくさんの理由があることを知りました。」と話してくれました。それから、自分の目標・理念を『相手と同じ目線で誠心誠意寄り添う』こととし、夢に向けて頑張っていくそうです。



高校生のインタビューシップを通して、私は改めて事業所の活動意義を確認し、初心を思い出しました。「いのちに寄り添い心をつなぐ」経営理念のもと精進していきたいです。

若者独立塾 丸亀おひさま荘 谷口 智美

## 《 法人に総務部を設置しました 》



こんにちは！8月より当法人の総務部に勤務しております柳口華織と申します。

専業主婦だった子育て中は主にボランティア活動をしておりました。今でもボランティアは可能な範囲で続けており、様々な人と出会い、多様な価値観に触れられることはとても良い経験となっております。

私が好きな言葉の中に『受けるより与えるほうが幸福である』という聖句があります。どんな出会いも一期一会と考え、相手を大切に思うことは私自身の幸せに繋がっていることを実感しています。

総務職として、職員の皆様のお役に立ち、事業活動全体がさらに円滑に行えるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

NPO 法人 丸亀街づくり研究所 総務部 <sup>やなぐち</sup> 柳口 華織

第35号丸亀街づくり研究所 令和4年11月7日発行  
発行者 NPO 法人 丸亀街づくり研究所  
〒763-0082 香川県丸亀市土器町東8丁目463番地1  
TEL:0877-85-3323 E-mail:ohisama@atbb.ne.jp





## 若者独立塾 丸亀おひさま荘通信

### 《 わくわくする毎日 》

11月といえば23日の勤労感謝の日です。休みの日はわくわくしますね。毎日が休日ならワクワクはどうなるのか?と思う時もあります。そのワクワクを仕事に変換できるようになれば仕事が辛い、辞めたいと思わなくなります。

人それぞれワクワクの違いはありますが「今を楽しむ」をテーマに毎日過ごしています。趣味のTVゲームを使って子どもたちに楽しんでもらいます。好みはそれぞれありますが年齢に合わせたゲームを持ってきます。まずは、子どもとゲームをして楽しむ事で「この職員と一緒にいれば楽しいことがある。」と感じられると、悩みや相談できる信頼関係が築けると思います。子どもの好奇心を刺激し、世界を遊びまわっています。

若者独立塾 丸亀おひさま荘 塚原 慎也

### 《 毎月ボランティアに来て下さる方々に質問してみました! 》

今回は、10代の若い青年たち2人にインタビューシートを書いて頂きました。

1人目のAくんは、いつも小学生たちと遊んでくれて、みんなにとっても慕われています。今は、介護福祉士の国家資格取得に向けてがんばっており、おひさま荘のボランティアを通して、経験を重ねていきたいそうです。また、ボランティアを通して、子どもたち一人一人の個性に合わせて関わることで信頼関係を築くことができることや、好きなものなどを把握しておく話題づくりしやすいということも学んだそうです。

2人目のBくんは、仕事をしながら休みの日にボランティアでおひさま荘に来て、得意の工作を教えてくれたり、公園で一緒に子どもたちと遊んでくれたりします。Bくんは、小さい頃にさみしい思いやしんどい思いをしたことから、子どもたちの力になりたいと、おひさま荘でのボランティアを希望してくれたそうです。

2人ともわざわざ休みの日におひさま荘に来て子どもたちと関わってくれてとても有難い存在です。彼らの夢や目標を叶えるために私たちもできることをサポートしていきたいと思えます。



若者独立塾 丸亀おひさま荘

〒763-0082 香川県丸亀市土器町東8丁目463番地1

TEL:0877-85-3323 FAX:0877-43-6929

E-mail:ohisama@atbb.ne.jp



自立援助ホーム

# nature 通信

## 《 夏休み土器川バーベキュー 》



夏休みの一、ナチュレでは土器川の河川敷でバーベキューをしました。肉や魚や野菜をたくさん焼き、みんなでおいしく食べました。冷たい飲み物も数種類用意し、デザートにはマシュマロチョコレート！

ナチュレを出て生活をしている先輩たちも参加し、さらに散歩中のおひさま荘の人たちも飛び入りし、賑やかな会になりました。

荷物運びと設営は入所者の若い力が活躍しました。バーベキューコンロの準備では炭おこしに苦戦し



ましたが、火が定着するまで格闘する姿が印象的でした。戸外の活動では普段とは違う入所者の姿を見ることができました。こんな風に日常ではできない体験を重ねることも自立に向けて必要なのだと感じました。みんなで楽しむ機会をまた作りたいと思います。

自立援助ホーム nature 松田 純子

## 《 1日、1日を大切に 》

今まで自立支援ホームの存在自体知らなかった自分が入社して3か月が経過しました。想定外の出来事に戸惑う事が多いですが、日々子どもたちと成長していきたいと思います。子どもたちが、充実した日々を送れる様にサポートして行き、笑顔で自立援助ホームを巣立って行ける様に頑張りたいです。

自立援助ホーム nature 篠原 千代巳

## 《 僕にメッセージを込めて 》

約5年半前、出会った僕。もう二十歳か…。

手から離れるなんて想像できなかったし、しなかった。最近僕から「離れるから寂しくない？」と聞かれた。本当は寂しいけど、僕の集大成は見送れそうで安心していると伝えた。私の言葉を聞いてどう思ったかな…。何年もいっしょに過ごしてきた「走馬灯のように」巡り巡るようになった。一緒に悔しくて泣いたり、嬉しくて爆笑したり、本当に色々あったね。私はいつでも僕の味方。いつでも帰っておいで。

自立援助ホーム nature 塚原 育美

自立援助ホーム nature (なちゅれ)

〒763-0082 香川県丸亀市土器町東 7 丁目 208 番地 101 号室

TEL:0877-85-3375 FAX:0877-85-3376

E-mail:nature@atbb.ne.jp

アフターケア事業所  
**わっかっか通信**

《 みんなの開放日 》

今年度から平日にも、わっかっかで「開放日」をすることになりました。開放日は、主に平日の夕方にふらっと立ち寄れる場所としてわっかっかを開放している日のことです。お休みの日や仕事終わりの日に、わっかっかの登録者が利用しています。はじめは利用者がいない日もあったのですが、少しずつにぎやかな開放日も増えてきました。

開放日が始まった当初は、私ができそうなことがあまり浮かばず、どんな開放日にしようかとも迷っていましたが。最近、来所した子に聞くと、こんなことをやりたいと教えてくれます。この前は、ゼリーの作り方を調べてくれたり、焼きマッシュマロを作ってくれたりして、楽しく過ごしました。別の日には、カードゲームをしたいという話になったのですが、私はやったことがなくルールを知らなかったので、来所した子に教えてもらいながら一緒にしました。最近、来所した子たちと一緒にコラージュをしました。コラージュは、画用紙に好きな写真やイラストなどを貼っていくものです。コラージュを楽しみに来所したと話す子もいて、できて良かったなと思いました。コラージュには、雑誌などの準備も必要だったのですが、わっかっかや法人内のほかの事業所のスタッフの方が協力してくださって、取り組むことができました。

開放日はまだ始まったばかりのため、今後どのように運営していくか迷っていますが、みんなが安心して利用できる場所にしていきたいと思っています。楽しい時間を過ごす中で、経営理念にある「寄り添う」ことを考えていきたいです。

アフターケア事業所 わっかっか 谷 世梨香



わっかっかの関わりは、日本全国北は北海道から南は沖縄まで。また、ある時は海外でも連絡を取り合うことがあります。日本ならアフターケアの仲間が各地にいます。だから、「どこにいても大丈夫。いつでも帰ってきて大丈夫。」と思える「わっか」がもっと広がっていけばいいなと思う今日この頃です・・・

アフターケア事業所 わっかっか たかまつ・まるがめ  
〒760-0063 香川県高松市多賀町 2 丁目 11-13 2 階  
TEL:087-802-6681 FAX:087-802-6682  
E-mail:wakkakka2017@air.ocn.ne.jp



アドボカシー事業所

# ここまい通信

## 《 駆け出しアドボカシー事業所 》

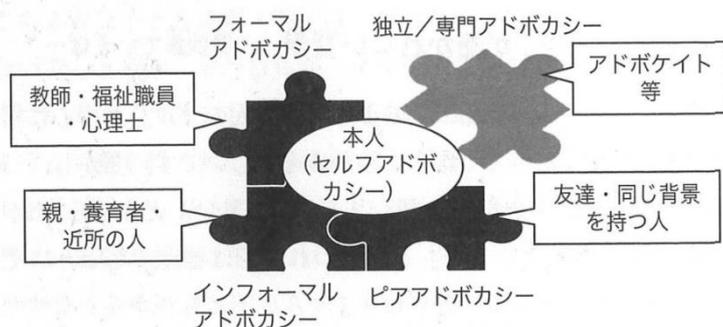


図2-5 アドボカシー・ジグソー (改変版)

栄留里美・長瀬正子・永野咲 (2021) 『子どもアドボカシーと当事者参画のモヤモヤとこれから—子どもの声を大切にするとってどんなこと?—』

私たちの役割である、独立専門アドボカシーは子どもの声に完全に寄り添う姿勢を持つため、大人（社会）と子どもの中立な立場とは言えません。子どもの立場に立つことがアドボケイトの仕事であり、完全な子ども主導での意見表明をしなければいけません。大人だからその先に起こってくることの予想がいたり、心配になってしまったりするがゆえにアドボケイトが子どもの話を聴く中で、子どもの気持ちや判断に対して

「こちらの方がいい。」「こうした方がいいんじゃない?」と、言ってしまうそうになっても言うことができません。すべては子ども主導だからアドボケイト自身がジレンマを感じることもあります。ただこのアドボカシー活動は、子ども自身が主体的に物事を進めていくことが重要なのです。だからこそ、子ども自身がマイクのオンオフを切り替える主導権を持ち、自分の人生のハンドルを握ることができるようになるために、子どもの声を聴き、子どもの意見表明をサポートし、子ども自身の力（セルフアドボカシー）を高めていきます（＝エンパワメント）。また、その過程で社会や大人が持っている「子どもだから話しても仕方ない・・・」「子どもだから大人が決めたことに従ってもらう・・・」そんな“子ども意識”も改革されていく必要があります。

今、私も活動の中で学び、自分に問い続けながらアドボカシーへの理解と、権利についての意識を改革している途中です。長く続けていかなければいけない、大きくて大切なテーマに触れている重さを感じながら日々奮闘中です。

子どもの声を聴くアドボケイトさん  
(有償ボランティア)を募集しています!!  
一緒に活動しませんか(^^)

アドボカシー事業所 ここまい 主任 越智 萌

研修などの情報は

Facebook でチェックできます! →



アドボカシー事業所 ここまい

〒760-006 香川県高松市多賀町2丁目11-13 2階

TEL:087-802-5727 FAX:087-802-6682

E-mail:cocomai2022@atbb.ne.jp